

School Amenity

7

Vol.30/No.352
2015
VOI-X

木造・木質系校舎を見る I

New Face21

つくばみらい市に、木の香が児童の心をいやす木造校舎が新設

つくばみらい市立陽光台小学校(茨城県)

9年生の学校としてつくられた新校舎

新庄市立秋野学園(新庄市立秋野小学校・秋野中学校:山形県)

町の未来をつくる小中一貫教育

文海みらい学園(文海町立文海小学校・文海中学校:佐賀県)

LIFE-LONG LEARNING SPACE
生涯学習空間

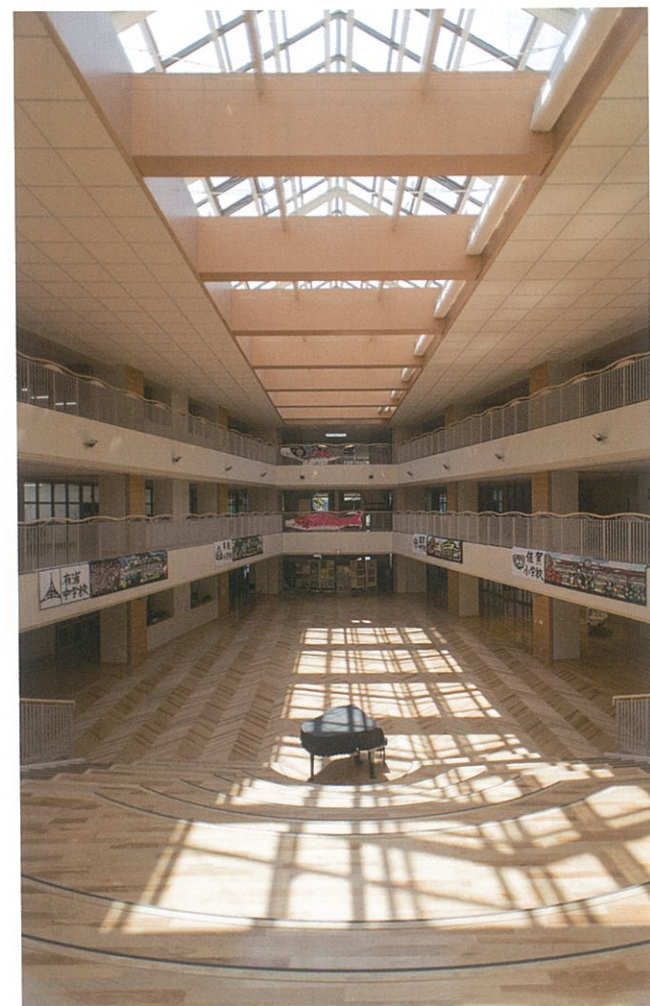




中央に正門を表すサインが立てられ、その奥にある玄関口前の柱には自然の中で学ぶことを象徴して石貼りのモザイクで昆虫が描かれている



南側外観。ガラスのカーテンウォール越しに外からも見えるように各階に設置されているアクリル製スタンドガラスは、昨年度、統合前の各学校にて制作された



みらいホールは校舎中央にあり、見通しもよく、校内各廊下からは、ホール内での活動が見渡せる



みらいホールから続く大階段を上った3階に、オープンなメディアセンターを整備した。小中共用である



普通教室。前面はどこでも書込みのできるホワイトボード仕様になっている



廊下と教室の間は引戸。床から天井まで、全面強化ガラスである(写真奥は体育館)



V字型校舎の南端、扇の要の位置は、各階とも学園生がくつろげるスペース、ひだまりコーナーとした。2階は管理諸室が並び最後に教育委員会事務局(写真左)が置かれている



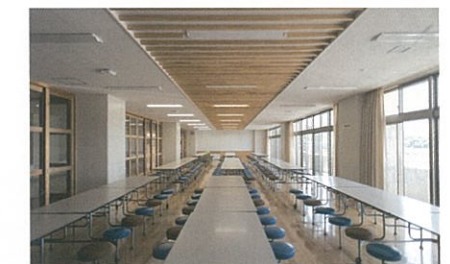
家庭科室(調理実習室)。調理器具はIH式。隣はランチルーム



1階ピロティに設けられた人工芝の広場



みらいホールとメディアセンターをつなぐ大階段。428㎡のトップライトから陽光が降り注ぐ、発表などの舞台や観覧場所などとして、様々な活用ができるスペースである



ランチルームの広さは3教室分、3学年の学園生が利用できる



トイレの大便器は洋式便器を採用し、洗面台は男女共用とした

木造・木質系校舎を見る I
ニューフェイス21

玄海みらい学園
(玄海町立玄海小学校・玄海中学校・佐賀県)

VISUAL COMMUNICATION

町のみらいをつくる小中一貫教育

玄海みらい学園

(玄海町立玄海小学校・玄海中学校：佐賀県)

佐賀県玄海町の2中学校と2小学校を統合した施設一体型の小中一貫校、玄海みらい学園(玄海中学校・玄海小学校)が平成27年4月に開校した。町のみらいを一身に受けて開校したその学びの場を訪問した。

玄海みらい学園誕生までの経緯

佐賀県北西部、東松浦半島の西側に位置する玄海町は東南北を唐津市と接し、西側を飯屋湾、そして玄界灘と接する人口およそ6000名の町である。九州電力の玄海原子力発電所だけでなく、近年は1500kWの大型風力発電機6基を擁する大型風力発電施設「玄海ウインドファーム」も稼働し、自然の豊かな恵みとともに私たちの生活に欠かすことのできないエネルギーをつくり、各地に送り出している地域である。

昭和30年に当時の値賀村と有浦村の合併により誕生した玄海町の学校は、平成22年に有浦地区の3小学校が統合して有徳小学校が開校してからは町内に2小2中が置かれてい

た。この間、町の児童生徒数は長期的に見ると減少が続いており、昭和50年には200名近かった中学校卒業生も現在は70名を切っている。このため、町の学校のあり方については、長い時間をかけた議論が行われており、初めて中学校の統合が協議されたのは昭和46年の「玄海町統合中学校促進協議会」までさかのぼる。

玄海みらい学園開校に向けた動きは、平成11年10月、玄海町学校統合問題委員会が「中学校統合」の答申を提出したことから始まる。その後、統合後の学校の位置や望ましい教育環境、統合のプロセスなどが、各種の委員会や教育委員会によって話し合わせ、平成23年度に玄海町教育委員会は

・4小中学校を統合して小中一貫教

育を行う

・校舎は施設一体型で現在の有浦中学校地に建設する

・平成27年4月に開校する

という基本方針をまとめ、議会の決議を受けた。

小中一貫教育の概要

町では、学校づくりに向けた教育方針や施設設備を検討するため、保育園・小学校・中学校の保護者や小中高等学校の教員、有識者などで構成される「玄海町立小中学校基本構想等検討委員会」と5つの作業部会(学校運営・学校支援・事務・教育課程・通学)を設置し、平成24年3月から平成27年3月まで計99回に亘って検討を行った。施設設備についてもこの中で26項目を詳細に検討している。たとえば児童生徒の普通教室の面積は、町内の既存学校の教室面積(63.0~64.8㎡)や他地域の施設一体型校舎を参考に、63.3㎡とすることもこの委員会で決められた。

玄海みらい学園では、学校長は学園長として1名が小学校と中学校の校長を兼ねる。9年間は大きく初等部の4年間・中等部の3年間・高等部の2年間と3期に分けて、1学級の定員は30名として子ども達の指導を行う。行事は、運動会や学習発表会など9学年一斉に取り組むことが基

本となっており、児童生徒会は全児童・生徒で組織され、部活動は7~9年生での活動となる。

1日の日課は、初等部と中・高等部で分かれており、初等部は45分授業、中・高等部は50分授業である。そして、8時10分から30分までの朝の会、読書が行われる。

初等部の校時間を調整することで、1校時から6校時の始まりが、9学年で揃えられている。

さらに、文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、英語教育に力を入れている。町独自に保育園からALTを配置し、保小中一貫の英語教育に取り組んでいるという。

新校舎概要

旧有浦中学校の体育館とプールを解体した校地に新しい校舎と体育館を建設した。今後、旧有浦中学校校舎を解体した跡地にプールとグラウンドの整備が行われる予定になっている。また、この場所は、通りをはさんで両側に町民会館・社会体育館・総合運動場などがある。入学式などの式典を町の文化ホールで行うこともあり、新校舎と町民会館には渡り廊下でつながっている。新校舎には、役場内にあった教育委員会も移され(校舎2階校長室隣)、この地域が町民の生涯学習の拠点として位置づけられたともいえる。

4階建ての校舎は、津波を考慮して、1階をピロティ、学校機能は2階から上のフロアとしている。中央に3層吹抜けのアトリウム「みらいホール」をおき、その両側にV字型に配置された校舎の教室が並ぶつくりとなっている。「みらいホール」はV字の中央で扇形をし、上部のトップライトから日光が降り注ぐ明るい空間で、多目的な活用が可能なが



みらいホールに面した部屋はほぼ間仕切りが引戸式となっている。写真は職員室前



南側に設置した二重螺旋階段は伝承にちなんでダ・ヴィンチ階段と名付けられている

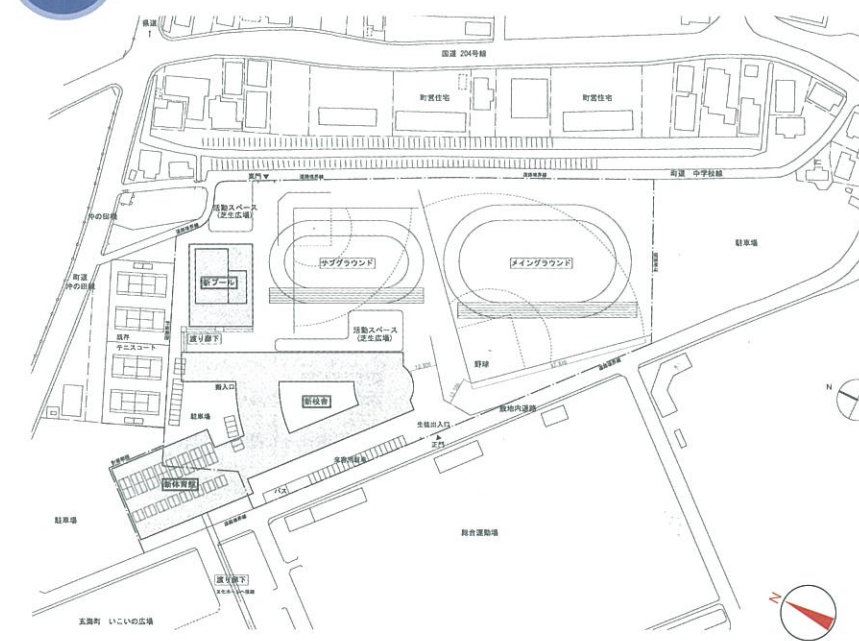
階段につながる。上がりきった3階にはフルオープンメディアセンターがおかれているが、メディアセンターをつくるにあたっては書架などに平湯丈夫氏監修の「平湯モデル」が採用されている。4階部分は吹抜けで、各階廊下(教室)とみらいホールも視線を妨げることなくつながっている。教室を出ると、視線の先にメディアセンターが映り、活動の様子がみえる配置といえる。

その教室は8m×9.25m、柱の幅も室内に入れたつくりとなってい

る。廊下と隔てる間仕切りは引戸式、前面は腰壁から上部が全てホワイトボード、外部に面した側は全面ガラス窓、無線LAN及び普通教室に冷暖房を完備した。明るく快適かつ最新の教育機器を活用した授業を展開できる環境とすることが目指されている。

体育館はバスケットボールのコート2面をとることのできる広さを確保した。ステージを設けていないのは、行事などを社会体育館や町民会館の文化ホールで行うためである。

配置図



北側からの全景。手前は町の社会体育館で中央に見えるのが玄海みらい学園

玄海みらい学園メディアセンター — 平湯モデルの学校図書館

平湯モデルは、図書館の利用を促す手法として家具やレイアウトの工夫からアプローチして生まれたブランドである。

玄海みらい学園のメディアセンターは、校舎中心のみらいホールから続く大階段を上った3階の北側にあり、校舎3・4階のどこからでもみえる。また、ホールからのアイストップとなる場所に「メディアセンター」の看板を取付け、2階からでも意識できる場所となっている。

内部は、周囲から活動の様子がわかる手前を楽しみ読みのエリア、落ち着いて学習のできる奥を調べ学習のエリアとして、それぞれのエリアを形成するように関連書籍の書架をレイアウト。さらに調べ学習のエリアは小学校用と中学校用の2カ所を用意した。

もちろん図書館の魅力は司書などスタッフの仕事によってつくられる。しかし斜めに置かれた新着図書の本架や中央に置かれた湾曲書架などは、見ているだけで近づき、本に触ってみたいくなる。環境づくりで生まれる魅力を実感できる学校図書館である。



メディアセンターは、奥もガラスでとても明るい環境になっている

施設概要

正式名称：玄海町立玄海小学校・玄海中学校（玄海みらい学園）
所在地：佐賀県東松浦郡玄海町大字新田1809-6
用途地域：都市計画区域外
建ぺい率：27.88%
容積率：58.96%
敷地面積：31242.80㎡
建築面積：6542.89㎡（今回事業分）
延床面積：15645.79㎡（今回事業分）
構造規模：RC造（一部S造）地上4階
設計期間：平成24年8月～平成25年3月
工事期間：平成25年6月～平成27年1月
設計監理：株式会社 山下設計 九州支社
施工：（建築・外構）松尾・岸本特定建設工事共同企業体
（空調・電気・衛生給排水）九電工・佐電工・大西工業特定建設工事共同企業体
建設事業費：42億2233万3000円（税込 用地費除く）
（内訳）
（設計監理費）2億2456万5000円
（建設費）39億9776万8000円
工事単価：約25万5000円（体育館棟含む、設備費含む）
■外部仕上げ（校舎）
屋根：厚膜型ウレタン塗装鋼板
屋上：アスファルト防水の上押しコンクリート
外壁：防水型複層塗材RE

開口部：アルミサッシ（屋内運動場）
屋根：厚膜型ウレタン塗装鋼板
外壁：防水型複層塗材RE
開口部：アルミサッシ
■内部仕上げ（代表的な部屋）（普通教室）
天井：吸音穴開石膏ボード
壁：ホワイトボードパネル、掲示クロス、部：杉板
床：複合フローリング（カバ）
（廊下）
天井：岩綿吸音板
壁：EP塗装
床：複合フローリング（カバ）
（屋内運動場）
天井：木毛セメント板
壁：音響調整板
床：大型積層材（ナラ）
■主な使用木材
カバザクラ：校舎床複合フローリング
スギ：校舎建具、ルーバー（天井）
ナラ：大型積層材（屋内運動場床）
突板：音響調整板
タモ（集成材）：遮付ベンチ
■空調設備
冷暖房方式：空冷ヒートポンプマルチパッケージ型
エアコン（電気式）
換気設備：一般換気扇、全熱交換器

その他設備：クールチューブ
■電気設備
受変電設備：屋内型キュービクル
照明器具：LED証明
■給排水衛生設備
給湯：厨房用マルチガス給湯器、個別電気温水器、太陽熱温水器
ガス：プロパンガス
雨水処理：トイレ洗浄・屋外散水
■情報通信設備
校内LAN：無線式（駐車場含めて全館対応）
インターネット接続：光回線
その他設備：光回線を活用したIP電話、ケーブルテレビ。情報コンセントは職員エリアのみで他は全て無線LANを利用
■プール設備
平成27年度着工予定
■屋外環境
透保水性平板、土路コン、人工芝広場、植栽
■給食調理室概要
栄養士：1名
調理員：14名（委託）
調理能力：最大600食/日

学校概要

（平成27年4月現在）

学園長：岩崎一男
開校日：平成27年4月
学校ホームページ <http://cms.saga-ed.jp/hp/genkai-mirai/>
電話：0955-80-0234

児童生徒数：527名（小学校348名、中学校179名 うち、特別支援学級25名）
学級数：25（小学校17、中学校8 うち、特別支援学級6）
交通：唐津大手口バスセンターより昭和バス有線「金の手」停留所下車徒歩5分

INTERVIEW

地域に信頼される学校を目指す



玄海みらい学園 学園長 岩崎一男氏

本校の開校までの経緯については、協議会の様子などを地元のケーブルテレビに継続的に放送いただいたこともあり、多くの方がご存知です。そして、玄海みらい学園がその期待を受けて開校しました。

昨年度、旧4校の校長や地域の方で話し合い、本校の校訓を「新・究・律・愛」と決めました。「新」は、新たなことに挑戦する気概、「究」は真実を追い求め本質を探る、「律」は規律を守り自分の心のコントロールする、「愛」は自分を愛し、隣人も愛し、自然・仲間を愛する心、です。この、新・究・律・愛を目指しますが、子ども達には、校訓とともに初年度の目標として「挨拶が響く学校」「歌声が響く学校」を掲げました。1年間でしっかりやりあげていきます。社会で挨拶がどれだけ大事であるのかを子ども達に今から指導します。挨拶をしっかりとできるようになることは、授業中の発表態度やコミュニケーション能力の向上にもつながるとも考えています。

校舎は、中央のみらいホールや1階のピロティなど、雨でも活動できる大きな空間があり、各教室も間仕切りを大きく開くことができます。見通しが良く広がりを感じることができ、子ども達にすばらしい環境だと思います。これからここで、私達

がじっくりと落ち着いて学習を促し、ただ聞くだけでなく、他者と関わって学ぶ、その姿勢を育みたいと思っています。

本校の大きな取組みにICTの利活用があります。電子黒板をいち早く全学級に配備し、デジタル教科書と併用して子ども達がより興味関心を持てる教育環境が整えられています。操作の研修も継続しながら、多くの授業で有効に活用しています。タブレットPCも昨年度は試験的に最上級生が活用しましたが、まだ実証研究の段階です。それでも、子どもの学び合いにはとても有効だということがわかりました。

地域の皆さんは学校を文化の拠点と考えておられますから、本校は子ども達の元気な姿を見せて、新しい学校への信頼を深めていきたいと思っています。そして地域との連携を進める上でコミュニティ・スクールを目指したいと考えており、地域の方がたには身近に学校に来ていただきたいと思っています。そういう意味では、大きな空間の中にすべての教室が配置されているこの施設は、子ども達がどこで何をしているのかがすぐにわかるつくりになっていて、本校の目指す姿に合っていると感じています。

設計ノート
Design Notebook



玄海みらい学園の設計にあたって

株式会社 山下設計 九州支社 設計監理部 重名俊二



V字型の校舎と体育館

はじめに

玄海町は、佐賀県の北西部にある町で、東松浦半島の西側中央に位置し、町域の北側から西側にかけて玄海灘に面しています。青い海、緑の山、清流の川と自然の景観に恵まれた町です。

玄海みらい学園は、玄海町立有徳小学校と値賀小学校を統合、有浦中学校と値賀中学校を統合し、新たな施設一体型小中一貫教育校として計画されました。

旧有浦中学校敷地において、既存校舎を利用した学校運営を行いながら既存体育館を解体し、新校舎と新体育館を建設されました。今後、既存校舎を解体し、新プールの建設とグラウンド整備が行われます。

基本コンセプト

1. 『愛着』を生む学校とする。
2. 地域の学習活動・交流の拠点とする。
3. 安心安全な生活・学習環境の場とする。



体育館



ピロティにある昇降口

4. 快適かつ環境に配慮した施設とする。

以上4点を基本コンセプトとして、基本構想段階から工事監理まで参加させていただき、校長先生をはじめ町・教育委員会・学校関係者・ご父兄などプロジェクト関係者と対話を積み重ね、「つくるべき価値」の共有を図りました。

敷地形状を生かした配置

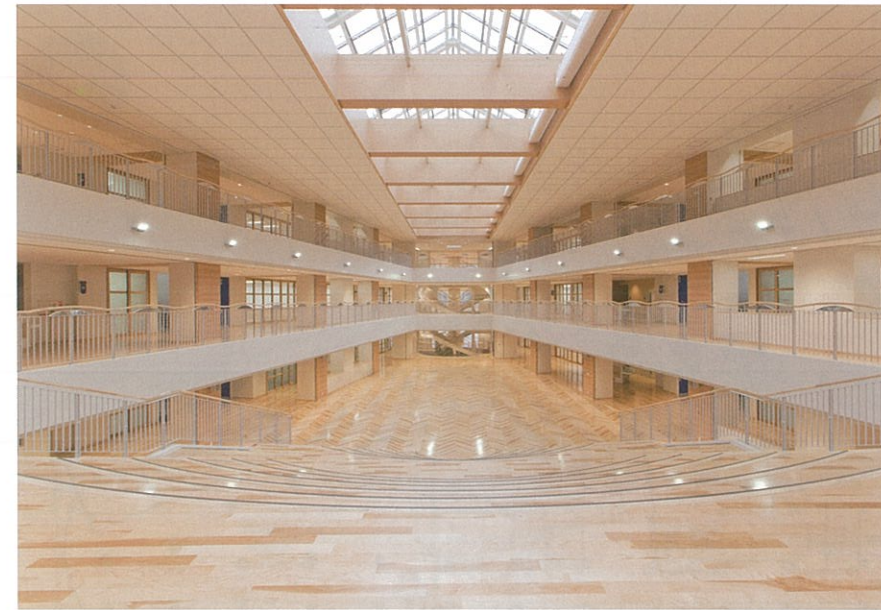
敷地は町の総合運動場を挟んで仮屋湾に面しています。さらに町民会館や社会体育館が隣接するゾーンに位置しています。敷地の形状は台形になっており、最終的なグラウンドの計画を見すえて、台形の斜辺を校舎の平面形に反映させ、V字型の校舎としました。沿岸部にあるため、水害対策として1階はピロティとしています。体育館の1階は駐車場として利用します。校舎のピロティ部分は昇降口とすることで東西両側からの出入りが容易に分かりやすく行えるようになっています。雨天時にも運動ができる広場もピロティに計画

しました。

「みらいホール」を中心とした校舎

校舎の教室群を、山側に窓のある教室東棟と海側に窓のある教室西棟の2棟構成とし、各棟の配置に角度をつけ、海側の教室西棟に連続して体育館を計画しています。教室2棟がV字型に開いた2階部分に校舎の中心のアトリウムとなる「みらいホール」を配置しました。1階の昇降口から上がって来ると、最上階までの吹抜けとトップライトによる明るく開放的な空間「みらいホール」につながります。全ての教室、特別教室、職員室がこのホールに面する配置とし、見通しがよくコミュニケーションが取りやすい空間構成としました。児童生徒たちが、アトリウムを介し、異学年と交流、教職員と交流する多目的エリアとしての空間です。

「みらいホール」から3階へとつながる大階段を設置しています。大階段を利用して演奏会などのイベントや集会・授業、美術や工作の展示会などを立体的な空間を活かして開催ができます。大階段上がったところに図書室・メディアセンターを配置し校舎の中核に位置づけています。学習のみならず、児童生徒および教職員が交流を深めるスペースとしています。



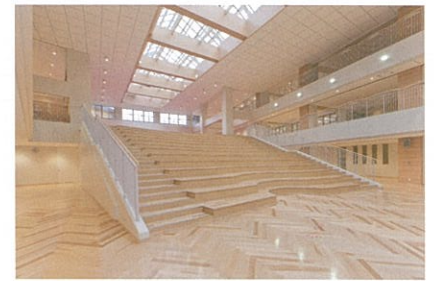
みらいホール

また、扇型の「みらいホール」の要部分に、町からの提案で、フランスのシャンボール城の階段をモチーフとした、二重の螺旋階段を設けています。シャンボール城の階段は様々な分野で業績を残したレオナルド・ダ・ヴィンチが設計したという説があり、今回設置した階段を「ダ・ヴィンチ階段」としました。階段の南側にはコミュニケーション・スペースとして、グラウンドが見渡せる「ひだまりコーナー」を計画しています。

生活・学習・地域の場として

みらい学園は校舎内に給食の調理室を設けており、完全給食となっています。異学年交流ができるように200名程度が同時に使用できる規模のランチルームを、この敷地の魅力の一つである海への眺望を活かすため、3階の海側に配置しました。仮屋湾の美しい風景を望みながら、学年を超えたランチによる交流の場となります。

環境配慮を学習できるように、バルコニーには、生徒たちが育てるグ



みらいホール大階段



ひだまりコーナー

リーンカーテン設置用のフックを設けています。また、屋上の屋根には、太陽光発電パネルを設置できる対応を行いました。地下ピットに雨水を貯留し便所の洗浄水などに利用するシステムを採用しています。

体育館は地域開放施設として利用しやすいように、ピロティからの一般動線を確保しています。さらに、隣接する町民会館や社会体育館と渡り廊下でつながっていて、生涯学習の場として、地域の教育力、地域の学習、地域との交流の拠点として校

舎全体が活用できるようになっています。

おわりに

この校舎で学校生活を送ることが、「自然」、「環境」、「仲間」、「自分」、「校舎」、「モノ」など多様なものに愛着が生まれる校舎とすることを目標に、関係者の方々と共に進めてきました。今後のプール建設とグラウンド整備により完成となりますが、子どもたちが「みらい」に羽ばたく学園となることを願っています。



ダ・ヴィンチ階段

